



本校は、令和 8 年度に創立 80 周年を迎えます

〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町4-219

TEL 048-641-0459

FAX 048-645-4584

E-mail sakuragi-j@saitama-city.ed.jp

## 「名付けられた葉」

～世の中に雑草という名の草はない～

校長 森角 由希子

「名付けられた葉」という合唱曲があります。詩人・新川和江さんの詩で、教科書会社によっては、国語の教材として掲載されていることもあり、私が音楽の教員としてスタートした頃、合唱コンクールの自由曲の候補曲としてあげていました。「～私も一枚の葉にすぎないけれど 熱い血の樹液をもつ～私は呼ばれる 私だけの名で 朝に夕に」。美しいメロディとともに、かけがえのない存在として、自分に誇りをもつ強い意思が感じられ、心が揺さぶられました。

「名付ける」という行為には、とても重要な意味があると思います。ペットに名前を付けるのは、家族の一員として大切な存在だからでしょう。また、新種の星や生物の発見、自社で開発した商品等々、名付ける行為には、多くの「希望」が込められています。私たち一人ひとりにも名前があり、その名には様々な願いが込められています。大切に名付けられた一人ひとりに未知の可能性があり、それぞれの名前にはその可能性が拓かれるように願いが込められていると思います。

「世の中に雑草という名の草はない」。この言葉は牧野富太郎博士(NHKの朝ドラ「らんまん」の主人公のモデル 日本の植物分類学の父と呼ばれる植物学者)の言葉です。私はこの言葉を、教員である自分の心構えとして少し解釈を変え、座右の銘の一つとしてきました。実践できていたかは、はなはだ自信がありませんが、一人ひとりを見ること、見守ること、みとめる(見・止める)こと、子の成長に寄り添うためには、しっかり見て変化に気づき、その時々に必要な支援をすることが大切です。認めることと褒めることは必ずしも同義ではなく、介入しすぎない、放任しすぎない、という加減もなかなか難しいものです。このような「加減」は保護者の皆様の方が心得ていると思いますが、学校においてもその機を逃さないようにしたいと思います。しかし、一人の教師の前に40名近くの生徒がいれば、見えることよりも見えないことの方が多く、なかなか理想に近づくことは難しいとも感じます。だから、「世の中に雑草という名の草はない」を指針にしていたのだと思います。

牧野富太郎博士は、1948年に植物研究者の一面をもっていた昭和天皇に進講し、植物学についてお話をされています。彼は「植物は人間がいなくても、少しも構わずに生活することができるが、人間は植物がなくては1日も生活することができない」と、自伝で述べています。

学校は、「子どもたちがいてこそ学校であり、子どもたちの未来をはぐくむところ」です。まだまだ道半ばではありますが、日々の教職員の地道な教育活動こそが、名付けられた一人ひとりを大事にする唯一の方法であることを教職員で共有していきたいと思っています。



正門近くにあるポプラの木  
「名付けられた葉」の詩に登場します。